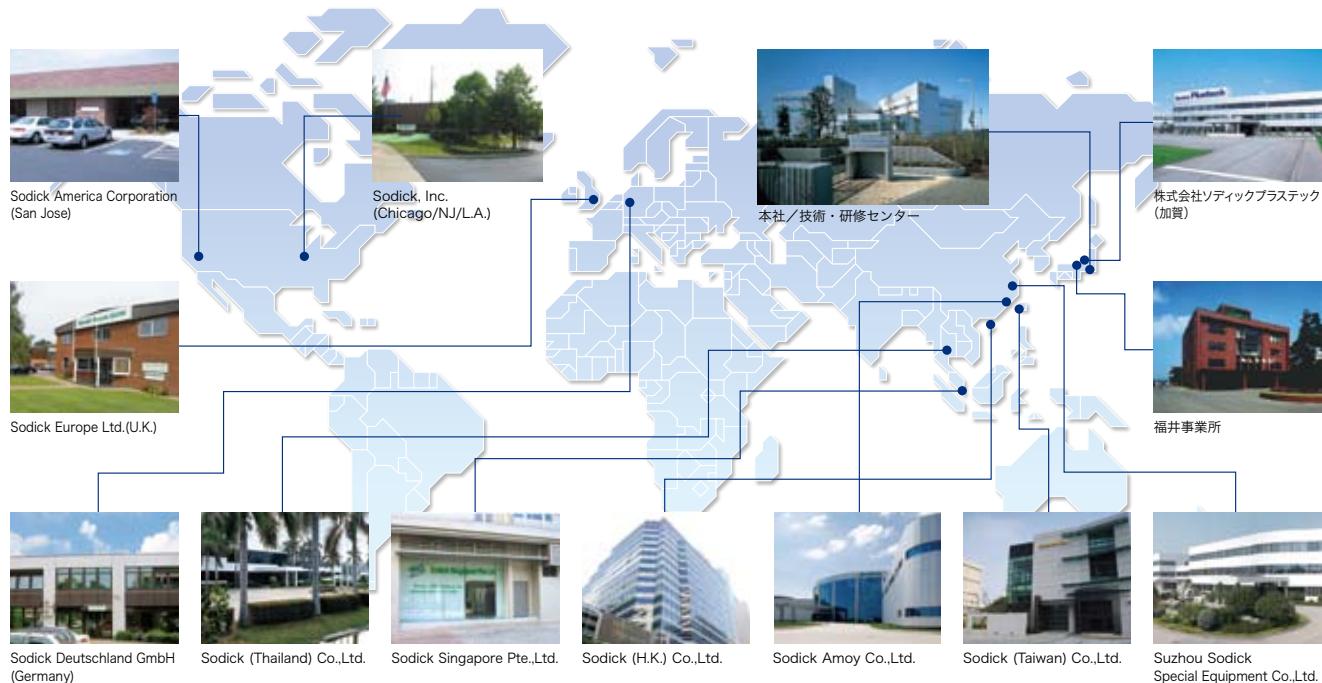


世界の主要拠点 (平成22年9月30日現在)

国内

本 社	横 浜					
営業拠点	仙 台	太 田	大 宮	東 関 東	横 浜	福 井
	松 本	静 岡	名 古 屋	大 阪	岡 山	福 岡
事 業 所	福 井	加 賀				



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL: 045-942-3111
FAX: 045-943-5835
(証券コード: 6143)



●このカタログは FSC 森林認証用紙と大豆インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

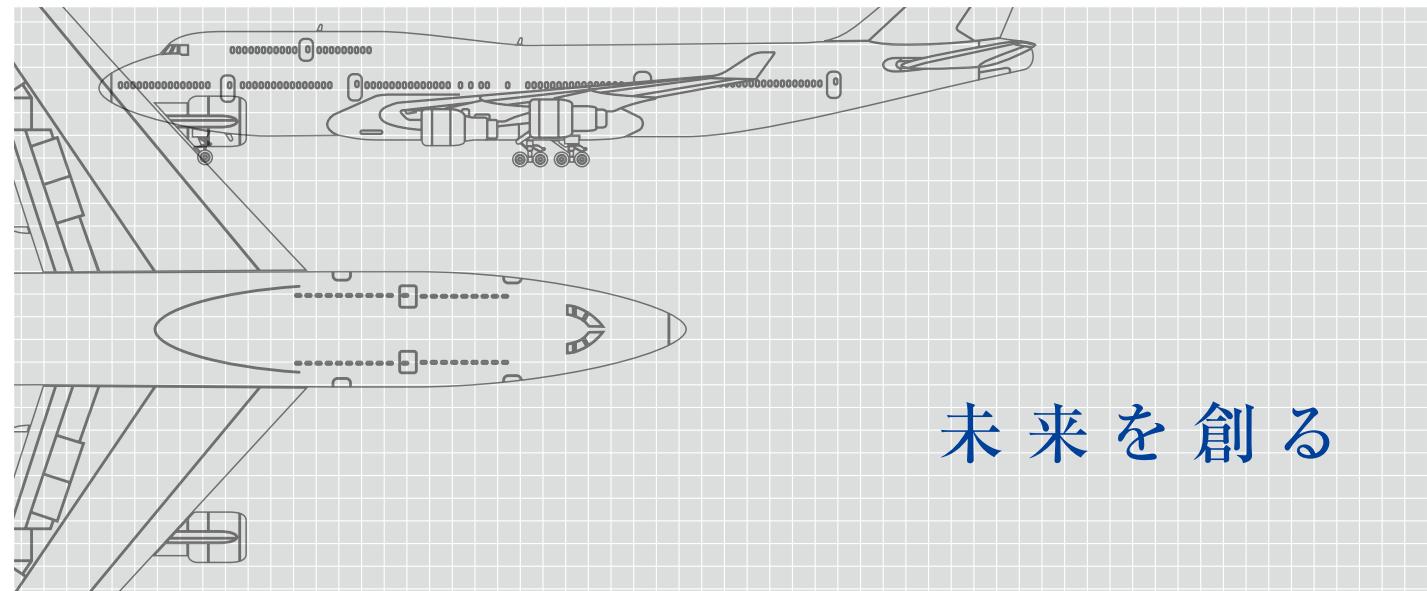
メールアドレス ir@sodick.co.jp



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

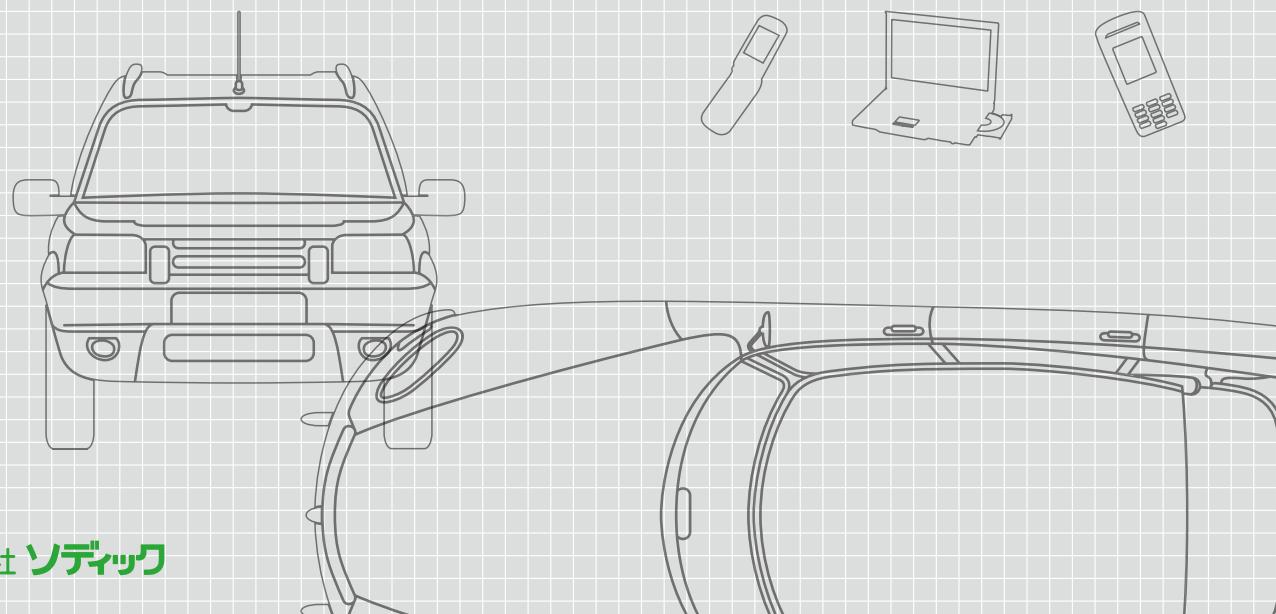
展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を
随時更新しています。



未来を創る

第35期第2四半期
事業報告書 平成22年4月1日～平成22年9月30日

Sodick
Business Report



株式会社 ソディック

展示会

IMTS2010、
JIMTOF2010に出展



当社は、IMTS2010(9月13日～9月18日、米国シカゴにて開催)、JIMTOF2010(10月28日～11月2日、東京ビッグサイトにて開催)に出展しました。米国のIMTS、日本のJIMTOFは欧州のEMOとあわせて世界3大と称される工作機械見本市で、それぞれ2年に1回開催されており、ものづくりの世界に携わる世界中のユーザーから関心もたれています。当社は「未来を創る」をキーワードにLED、エコカー、航空機、医療など需要拡大が期待できる分野を中心に多彩なソリューションを提案するとともに、最先端の技術を駆使した新製品から新興市場をターゲットにしたグローバルスタンダードマシンまで豊富な製品ラインナップをご紹介します。

新製品

AZ300



AZ300は、「2007年 精密工学会 技術賞受賞」や「2008年 日刊工業新聞 第51回十大新製品賞」を受賞し、お客様から高い評価をいただいたAZ250の後継機として生まれました。ナノレベルの加工性能を備えたAZ300は、一層の精密化・微細化が求められている医療機器・バイオテクノロジーの分野から、更なる小型化・軽量化が進む携帯電話・デジタルカメラの製造まで幅広い分野で究極の高効率・高精度の生産を支援します。JIMTOF2010の当社ブースにて展示しましたが、日本国内だけではなく、中国やアジアなど世界中の製造業関係者から注目を受け、その先進的な機能に高い評価をいただきました。

未来を創る

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。第35期も既に折り返し地点を過ぎましたが、上半期の経営環境を総括しますと、中国を中心とする新興国では設備投資需要が急回復する一方、欧米や日本では需要が底を打ったものの本格的な回復には至らず弱含みで推移、という明暗が分かれる環境でした。

このような不安定な経営環境でしたが、とにかく収益性を改善して、一刻も早く黒字化を実現することを最重要課題として業務に邁進してまいりました。一昨年から組織再編、コスト削減の徹底など全社一丸となって経営合理化に取り組んできたことに加えて、当期に入り中華圏の設備投資需要が活況を呈したこともあり、なんとか黒字化の目処が立ってまいりました。これもひとえに株主の方々を始め、関係各位のご支援ご厚情のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

下半期も地域によって温度差のある状況は続くと思われまじし、円高の問題や新興国市場の減速懸念もございます。予断を許さぬ状況ですが、手をこまねている訳ではありません。中国に続く市場として、インドやブラジルをターゲットに進出準備を着々と進めているほか、IPMモータやLED照明事業など伸び代のある新事業にも経営資源を配分してまいります。新市場、新事業への挑戦は新たな困難への挑戦でもありますが、当社の社是である「創造」「実行」「苦労克服」の精神で困難を克服し、新たな分野の「未来創り」を進めてまいります。

当第2四半期末の配当につきましては、誠に遺憾ながら引き続き無配とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 藤原克英

CONTENTS

Sodick Corporate Highlights 1
株主の皆様へ 2
当第2四半期(累計)の業績 3-4
特集 トップインタビュー 5-6

第2四半期(累計)連結財務諸表(要旨) ... 7-8
株式情報/株式分布/会社概要/役員 9
株主メモ 10

当第2四半期(累計)の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国向けを中心とした輸出の増加により回復基調にありましたが、個人消費や雇用情勢は依然として改善しておらず、また、円高及びデフレによる景気の下振れ懸念がくすぶり続けるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

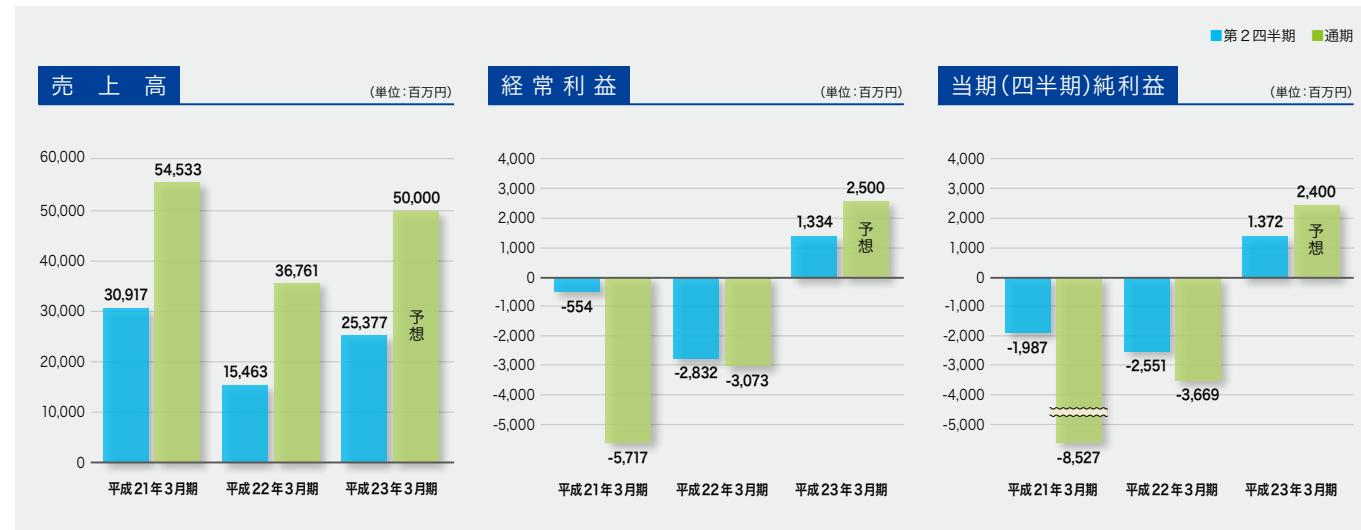
当社グループの主要な事業である工作機械事業におきましては、中華圏の設備投資需要に牽引される形で需給環境は急速に改善しました。中華圏以外の日本や欧米地域では、金融危機以降低迷していた設備投資需要に回復の兆しが表れ始めたものの、依然として本格的な需要回復にはいたっておらず、地域によって落差のあるまだら模様の需要環境で推移しました。産業機械事業においてもLED製品向けの設備投資が堅調に推移しました。

このような経営環境の下、当社グループは、好調を維持する

中国、台湾の設備投資需要を取りこぼすことのないよう生産体制の強化に努めるとともに、同地域向けのコストパフォーマンスに優れた製品の開発にも注力いたしました。販売面におきましては米国で開催された世界的な工作機械の展示会「IMTS2010」に出展し、ユーザーの生産性を向上させる自動化システム、環境負荷の低いリサイクル可能な消耗品を紹介し顧客の獲得に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比99億14百万円増の253億77百万円(前年同四半期比64.1%増)となりました。利益面では、営業利益は24億88百万円(前年同四半期は26億70百万円の営業損失)、経常利益は13億34百万円(前年同四半期は28億32百万円の経常損失)、四半期純利益は13億72百万円(前年同四半期は25億51百万円の四半期純損失)となりました。

連結業績ハイライト



セグメント別概況

工作機械事業 (日本)

売上高構成比

24.2%

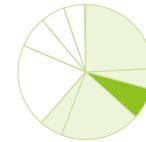


国内の設備の稼働状況は、電子部品向けなどの需要の回復などにより向上しており、ワイヤ線などの消耗品の販売・保守サービスは安定していましたが、円高懸念の高まりもあり顧客の設備投資に対する慎重な姿勢は継続しています。上記の結果、当事業の売上高は61億32百万円となりました。

工作機械事業 (欧州)

売上高構成比

7.5%



欧州地域では顧客の設備投資意欲に回復がみられましたが、設備投資に対する慎重な姿勢は継続しており、当地域の需要は弱含みで推移しました。上記の結果、当事業の売上高は18億99百万円となりました。

工作機械事業 (その他アジア)

売上高構成比

5.3%



当地域では自動車・二輪車向けや半導体関連向けの設備投資需要が好調を維持しており、順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は13億44百万円となりました。

精密金型・精密成形事業

売上高構成比

7.5%

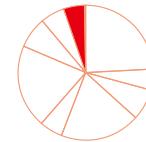


当事業においては精密コネクタなどの精密成形品の製造を行っておりますが、ハイブリッドカー向けの需要が堅調を維持しており、当事業の売上高は19億8百万円となりました。

要素技術事業

売上高構成比

4.9%

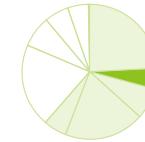


当事業は、液晶パネルの検査装置用XYステージの製造販売、大型ファインセラミックスの製造販売、モータの製造販売、金型生産統合システムの販売から構成されております。上記の結果、当事業の売上高は12億35百万円となりました。

工作機械事業 (北・南米)

売上高構成比

5.1%

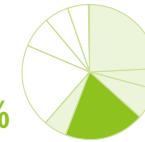


北米地区では医療業界向け及び航空宇宙向けの需要が堅調に推移したほか、自動車のモデルチェンジや品質向上の動きにより同産業向けの設備投資にも動きが見え始めました。また、シカゴで開催された世界工作機械見本市「IMTS2010」に出展し、積極的な営業活動を展開しました。上記の結果、当事業の売上高は12億96百万円となりました。

工作機械事業 (中華圏)

売上高構成比

19.3%

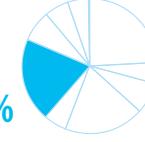


中華圏においては、携帯端末機器や電化製品、自動車関連など幅広い分野が活況を呈したこともあり、当地域の大手から中小まで幅広い顧客層で旺盛な設備投資需要がみられました。上記の結果、当事業の売上高は49億2百万円となりました。

産業機械事業

売上高構成比

20.2%



精密射出成形機の販売においては、LED関連向けの型型射出成形機に加えて液晶テレビ向けの大型機にも需要がみられ、順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は51億21百万円となりました。

食品機械事業

売上高構成比

5.8%



当事業は各種製麺機、麺製造プラントなどを中心に事業を展開しております。原価管理の徹底や生産工程を見直し収益の安定に努めました。上記の結果、当事業の売上高は14億62百万円となりました。

その他の事業

売上高構成比

0.3%



その他は、パンフレットなどの印刷物の製作事業や放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。その他の売上高は73百万円となりました。

Top Interview

トップインタビュー

新興市場への事業展開、環境対応製品の拡大を軸に、さらなる成長を目指します。

Q 今後のソディックグループの姿を教えてください

A 現在「ものづくり」の世界には、新興国の台頭と環境配慮型ビジネスの成長という二つの潮流があり、今後はこの二つの流れに沿った事業展開を進めてまいります。
新市場対応では、インドで既に営業拠点を設けて事業を開始しておりますが、今後は機械の保守サービス体制も拡充させ、ソディックブランドの浸透に努めてまいります。さらに今期中には成長著しいベトナムやブラジルへの進出も計画しています。環境対応製品の分野では、放電加工機の消耗品であるワイヤ電極線のリサイクル事業に続き、省エネ性の高いIPMモータ事業にも注力していきます。今後は放電加工機を軸に「ものづくり」の世界だけでなく、社会全体の環境と共生した「未来を創る」お手伝いをしてまいります。

Q 当上半期を振り返ってみた感想はいかがですか？

A 当上半期は、世界金融危機以降急減していた設備投資需要が下げ止まり、回復の兆しがようやく見え始めた半年でした。特に中華圏は回復が早く、すでに金融危機以前かそれ以上の需要が見られます。ただ円高の進行など先行き不透明な環境は続くと思われるので、油断なく下半期も業務に邁進してまいります。

Q 円高が進行していますが、業績への影響について教えてください

A 円高の急激な進行による業績への主な影響としては、外貨建ての資産が目減りして為替差損として計上されてしまうことがあります。しかし、当社グループは1985年のプラザ合意を契機に、生産拠点の海外展開を進めて円高に強い体制作りをしてきた実績があります。現在では放電加工機の主力工場はタイ、中国の蘇州、廈門（アモイ）の3ヶ所にあり、放電加工機の海外生産比率は90%以上を超えるほどです。国内生産に比べ、円高で製品の価格競争力が低下することなく、現地の費用や設備投資を抑制できるメリットがあります。今は製品部材の海外調達比率を高めるなど、円高のメリットを活かした事業展開を考えています。

代表取締役社長
藤原克英

Q ソディック製品の強みについて教えてください

A 世界初のNC（数値制御）放電加工機、リニアモータの採用など、ソディックの製品には「ものづくり」の世界に革命をもたらした製品・技術が数多くあります。これらの革新を生み出す原動力になった「必要なものが世の中になれば自分たちが作り出す」という精神、これこそが当社と当社製品の強みだと考えております。

Q 株主への利益還元の基本方針は？

A 株主の皆様への利益還元は、配当と企業価値の向上をもってお応えすることを基本方針としております。配当は長期にわたって株を持っていたいる株主の皆様へ報いるために、可能な限り安定的に行いたいと考えております。利益の一部は投資に使わせていただきますが、投資は事業成長と企業価値の向上につながる研究開発や設備投資を厳選して慎重に行ってまいりますので、何卒ご理解賜りたく存じます。

Q 最後に株主の皆様へ一言

A 2008年の世界金融危機の影響により業績が急激に悪化し、株主の皆様に変なご心配とご迷惑をおかけしましたこと、大変申し訳ございませんでした。社長に就任後、組織のスリム化や経費の大幅な削減など経営の合理化に一心に取り組みしました。新興国市場の回復もあり、なんとか黒字化の見通しが立つようになりましたが、これも偏に株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援があってこそのもので、ここに重ねて感謝申し上げます。為替リスクや景気の減速懸念など依然としてありますが、難しい時代を切り拓いていくことはやりがいのあることです。株主の皆様のご期待に応えるべく、全力を尽くしていく所存です。これまでに増して、ソディックをご支援いただきたくお願い申し上げます。

Point

流動資産

流動資産は、前連結会計年度末比69億52百万円増の491億8百万円となりました。売上が好調に推移したことにより受取手形及び売掛金が26億59百万円増加したことに加え、販売用の在庫を確保するためにたな卸資産が31億77百万円増加していることが主な増加の要因です。

固定資産

固定資産は、前連結会計年度末比18億22百万円減の287億89百万円となりました。また、前期に引き続き先行き不透明感の強い経済環境だったため新規の設備投資を抑制した結果、償却額が投資額を上回り、有形固定資産が10億23百万円減少したことが、主な減少の要因です。

負債の部

負債は、前連結会計年度末比41億24百万円増の530億43百万円となりました。前期に引き続き経営改善計画の有利子負債の圧縮に努め、短期借入金が前連結会計年度末比5億7百万円減少した一方、販売量の増加に伴う生産増により仕入債務が40億15百万円増加し、合計では負債は増加することとなりました。

四半期連結貸借対照表

科目	期別	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 平成22年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間末 平成22年9月30日現在
	資産の部		
流動資産		42,156	49,108
固定資産		30,611	28,789
有形固定資産		23,786	22,763
無形固定資産		2,743	2,614
投資その他の資産		4,081	3,411
資産合計		72,767	77,897
負債の部			
流動負債		36,781	41,664
固定負債		12,137	11,379
負債合計		48,919	53,043
純資産の部			
株主資本		23,599	24,997
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		6,949	5,879
利益剰余金		△ 1,990	478
自己株式		△ 2,135	△ 2,135
評価・換算差額等		△ 1,341	△ 1,798
新株予約権		23	24
少数株主持分		1,566	1,629
純資産合計		23,848	24,853
負債純資産合計		72,767	77,897

四半期連結損益計算書

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
	売上高		15,463
売上総利益		3,042	8,156
営業利益又は営業損失(△)		△ 2,670	2,488
経常利益又は経常損失(△)		△ 2,832	1,334
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)		△ 2,572	1,144
四半期純利益又は四半期純損失(△)		△ 2,551	1,372

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
	営業活動によるキャッシュ・フロー		4,289
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 537	△ 72
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 6,465	△ 872
現金及び現金同等物に係る換算差額		40	△ 390
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 2,672	276
現金及び現金同等物の期首残高		18,693	15,804
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		—	189
現金及び現金同等物の四半期末残高		16,021	16,270

Point

営業利益

営業利益は、前年同期比51億58百万円増の24億88百万円となりました。売上が好調に推移したことにより売上総利益が51億13百万円増加したことが主な要因です。その他、売上増加に伴い運賃や販売手数料も増加しておりますが、経営合理化により人件費をはじめとした経費の削減を徹底させた結果、販売費及び一般管理費は45百万円減少しております。

四半期純利益

四半期純利益は前年同期比39億23百万円増の13億72百万円となりました。当上半期においては中華圏の工作機械市場が活況を呈したに加え、LED関連製品向けに射出成形機の需要も好調に推移するなど売上が回復したことにより、四半期純利益は大幅な増加となりました。

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比26億78百万円減の16億11百万円となりました。売上が好調に推移した結果、売上債権が増加したほか、生産増に伴いたな卸資産が増加したことが大きな要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比4億65百万円増の△72百万円となりました。当上半期の投資活動は、前期に引き続き新規の設備投資は抑制し、設備の更新投資が中心でありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比55億92百万円増の△8億72百万円となりました。主だった支出としては財務体質改善のため、短期借入金の返済をすすめたことによる支出3億95百万円、社債の償還による支出2億17百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1億96百万円によるものです。

株式情報 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	16,228人

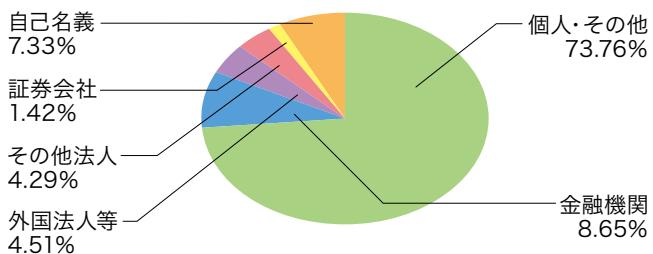
大株主 (平成22年9月30日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,920,825	7.33
古川 利彦	2,345,975	4.39
大村 日出雄	1,045,400	1.95
ソディック共栄持株会	926,900	1.73
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
鈴木 正昭	726,260	1.35
株式会社北陸銀行	700,000	1.31
ソディック従業員持株会	534,370	1.00
株式会社北國銀行	500,000	0.93
大村 八重子	454,600	0.85

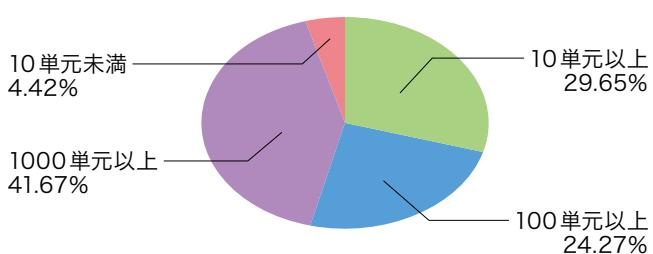
会社概要 (平成22年9月30日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	藤原 克英
従業員数	268人(連結2,725人)
連結子会社	30社
営業品目	NC形彫り放電加工機/NCワイヤ放電加工機/NC細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

所有者別株式分布状況 (平成22年9月30日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成22年9月30日現在)



役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役社長	藤原 克英
取締役副社長	保坂 昭夫
専務取締役(営業統括担当)	高木 圭介
専務取締役(商品技術担当)	金子 雄二
常務取締役(営業本部長)	松井 孝
常務取締役(カスタマーエンジニアリング本部長)	唐戸 幸作
常務取締役(総合企画本部長)	古川 健一
取締役(欧米地区営業担当)	久保 光宏
取締役(生産本部長)	岡崎 秀二
取締役(国内営業統括部長)	島田 幸徳
取締役(研究開発本部長)	原田 武則
取締役	鈴木 正昭
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	小山 秋吉
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir-f.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。